



あさまる通信

第70号 平成19年5月

発行：習志野販売株式会社
〒275-0016
千葉県習志野市津田沼5-11-10 吉田ビル3F
TEL 047-454-2355 FAX 047-454-2357
URL <http://www.asamaru.com/>
e-mail info@asamaru.com

子供の安全は、家庭と地域で守りましょう！



◆子供を犯罪から守る

4月も下旬になると新学期、新入学と慌しかったのも一段落。子供たちも保護者の方も新しい環境に慣れてきた頃でしょう。でも、子供を取り巻く環境には、危険がいっぱいです。保護者として、地域の大人として、現状を把握して子供たちを「犯罪から守る環境」を作りましょう。

不審者の行為として一番多いのは「声かけ」です。これは全体の半数以上を占めています。声かけには「お菓子をあげるよ」「おもちゃを買ってあげるから、一緒に遊ぼう」などと物で誘うもの。「○○小学校はどこ？」など道を尋ね、腕をつかんだり車に引き込んだりするもの。「お母さんが呼んでいる」「お母さんが入院した。病院に行くから車に乗って」と嘘をついて車に乗せようとするものなど、色々な手段で子供を人気のない場所に連れて行ったり、車に乗せようとする場合があります。このような「声かけ」は、どんどん巧妙化しています。

また、被害に合う子供は女子と考えられがちですが、男子が対象になるケースも25%以上という事案もあるので、性別にかかわらず注意が必要



要です。年齢別でいうと小学生が8割以上を占め、次いで中学生、未就学児童の順となっております。狙われるのは帰宅途中が最も多く、特に一人での時の被害が全体の8割以上を占めています。

このような情報は、イタズラに不安を募らせてしまいがちですが、これを参考に普段から注意を払えば、犯罪に巻き込まれる危険性が減るのです。保護者の方は、子供に次の注意点をよく説明してあげましょう。また防犯ブザーなどの防犯用具を携帯させておくことも大切です。万が一、助けを求められた場合は落ち着いて、子供から話を聞き警察に連絡しましょう。

☆あさまるの約束

よしの約束☆

- 何かあったら大人に知らせる。
- 子供だけで遊ぶ時は、決まった範囲で遊ぶ。
- 出かける時は「誰と、どこで、何を、何時に帰るのか」を家の人に知らせる。
- 人気のない所で、一人で遊ばない。
- 知らない人に付いて行かない、車に近づかない。
- 危険を感じたら大声を出して、す

あさまるinfo

◆西浜名人寄席

日時：4月27日(金) 開場 午後6時 開演 午後6時30分
※5月以降、第3金曜日開催予定
場所：西浜ホール
内容：落語をはじめ講談、色物等バリエーションに富んだ構成
木戸銭：当日500円
定員：150名
問合せ：株式会社テックエステート西浜ホール事務所
電話 047-408-0205 FAX 047-408-0170

◆津田沼南口商店会 楽市フリーマーケット

日時：5月5日(土)・6日(日) 午前10時～午後4時
※雨天中止
場所：津田沼公園2階園路(サンペデック)
イベント：「シキサイ」和太鼓演ほか

◆懐かしい街頭紙芝居

日時：5月20日(日) 午後1時～3時頃
場所：菊田公民館隣接公園(雨天時の場合は3階講堂)
内容：劇団「蚊帳の海一座」の関さんによる街頭紙芝居。
自転車の後ろに紙芝居の台を乗せ、懐かしい昭和のレトロな雰囲気を感じながら紙芝居を楽しむ。
料金：無料

◆新習志野駅前商店会 駅前フリーマーケット出店者募集

日時：6月3日(日) 午前10時～午後4時※雨天中止
場所：新習志野駅前メルクス新習志野モール内
募集数：35区画 ※応募多数の場合は抽選
保健所の許可が必要な飲食物は不可
出店料：2000円(1区画：2.5m×2m)
駐車場：1台500円(メルクス新習志野駐車場の指定場所を利用)
申込先：習志野市商店会連合会『新習志野駅前フリーマーケット係』
〒275-0016 習志野市津田沼5-12-12 サンロードビル6階
電話 047-455-1955
申込方法：往復ハガキに住所・氏名・電話番号・FAX・主な出品物を明記して、上記の申込先まで郵送して下さい。
締切日：5月23日(水) 必着

イカ/オスシ

- イカ…行かない
- ①…乗らない
- オ…大声で叫ぶ
- ス…すぐ逃げる
- シ…知らせる

ぐに近くの家やお店に逃げこむ。普段から逃げる練習などをしておくと、とっさの時に実行できます。子供は被害にあった事を話すと叱られると思いがちですから、コミュニケーションをとり、何でも話し合える環境を作っておきましょう。次の「イカ/オスシ」は子供が犯罪に巻き込まれないための「約束事」をまとめた標語です。覚えておきましょう。

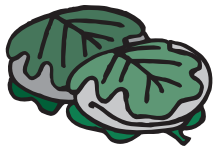
◆柏餅とちまき

5月5日の端午の節句が近づくと、和菓子屋さんの店先には柏餅やちまきが並びます。

なぜ端午の節句に柏餅やちまきを食べるようになったのでしょうか？

柏餅の原型は安土桃山時代からあったようですが、端午の節句に食べるようになったのは江戸時代。柏の「新しい芽が出るまで古い葉が落ちない」という特徴から「家系が途絶えない」「子孫繁栄」といわれ、その縁起をかついだ武士たちを中心に広まったという説があります。

一方、ちまきの由来は中国の故事が日本に伝わったのが始まりといわれています。中国、楚の時代。民衆に好まれ、高名な詩人である屈原が、国の行く末を嘆き汨羅江に身を投げてしまいました。



す。民衆は彼を弔うため、また魚が彼の亡骸を傷つけないようにと、命日の5月5日に米を笹の葉で包み、邪気を祓う五色の糸で縛って御霊に捧げたのです。この風習が平安時代に宮中での行事、端午(病気や災厄を祓う)儀式として定着し、以後ちまきは関西を中心に広まったと言われています。日本のちまきは、もち米を植物の葉で包み灰汁で煮込んで作る保存食でした。後に各地で改良、簡略化して現在の和菓子となっていたようです。植物の葉は笹でなく、茅の葉で巻いて作られたため「茅巻」とも、千回巻いたから「千巻」とも称されます。茅は旺盛な繁殖力から神霊が宿る植物と考えられていたことから、災厄、疫病を祓う食べ物とされています。

